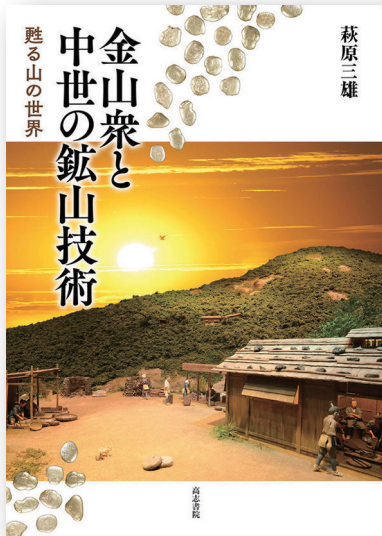


新収蔵資料抄



最寄り図書館に取り寄せ可

金山衆と中世の鉱山技術 甦る山の世界

萩原三雄 / 著 高志書院 2022.10 321.5p 22cm
562.1/ ネ 2X 2023.1.27 受入 定価 7,000 円+税

目次

- | | |
|----------------|--------------------|
| 第1部 金銀山の研究史 | 3 甲斐・湯之奥金山遺跡 |
| 1 鉱山史研究と考古学 | 4 丹波山金山 (丹波山舟越金山) |
| 2 甲斐・黒川金山の学際研究 | 5 佐渡金銀山遺跡 |
| 第2部 鉱山技術の考古学 | 6 北海道・カニカン岳金山 |
| 1 柴金 | 7 金山遺跡における「場」と「景観」 |
| 2 鉱山臼 | 第4部 戦国大名と金山 |
| 3 小型鉱山臼をめぐる諸問題 | 1 甲斐の金山と武田氏 |
| 4 絵巻にみる粉成技術 | 2 甲州金成立期の一過程 |
| 5 甲斐金山の鉱山技術 | 3 勝沼氏館跡の金工房跡と碁石金 |
| 6 金工房跡と精錬技術 | 4 甲斐金山の中世と近世 |
| 第3部 金銀山遺跡の諸相 | 初出一覧 |
| 1 東国の金山 | 萩原先生の金山研究と本書の刊行 |
| 2 越後黄金山 | ／今村 啓爾 |
| | 参考文献一覧 |

資料概要

本書は、中世～近世前期頃の日本の金山(金鉱山)を中心とした鉱山史に関する諸研究をまとめたもので、2022年2月に急逝した中世考古学の大家・萩原三郎の遺稿を基に上梓された。テーマの中心は甲斐金山、特に黒川金山と湯之奥金山の二つの遺跡であるが、鉱山に関する考古学的研究の通史として読むこともできる。

本書では考古遺物の中でも、鉱山臼(こうざんうす)と、金が付着した素焼きの小皿片(かわらけ)に多くの頁が割かれている。晩年、全国的視野で鉱山臼の研究をしていた東京大学名誉教授の今村啓爾氏に対して共同研究の企画を打診していたことから、著者がこれらの遺物に対してさらなる研究の必要性を認めていたことが窺い知れる。

鉱山臼とは、動力による鉱石粉碎の普及以前に使われた道具である。産金には、河床の砂金をさらう川金、段丘などの林間に堆積した砂金を採る柴金、そして、鉱石を採掘する山金があるが、山金採掘は事業化の難度が高く、採掘後も鉱石を粉碎するプロセス、「粉成(こなし)」が必要となる。その作業で使われるのが鉱山臼で、研究で重視される理由は、種類や出土の状況から鉱山技術の発展や地域間交流の状況が分かるからである。

一方、かわらけは、鉱山以外の場所でも発掘されるが、注目すべきはそれに付着した金の純度や組成である。武田氏の親族衆、勝沼氏の居城「勝沼氏館跡」(甲州市)から出土したかわらけの金を黒川金山から見つかったものと比較すると、純度や金以外の金属元素が一致する。このことから黒川金山で採掘され碁石金の形で運ばれた後、ここで何ら

かの加工がされたことが分かるという。

金山は、1980年代からの総合学術調査でイメージが大きく変わった。かつて文献史学を中心とした研究では、金銀山や金堀(かねほり)は大名権力にがっちり組み込まれていたと考えられており、「金山(かなやま)衆」と呼ばれた甲斐金山の鉱山労働者たちも甲斐武田氏の支配下にあったと考えられてきた。しかし調査によって茶の湯道具の出土や経済力を示す光背型石塔が確認されたことで、現在、金堀には「山で働いた自立的・主体的な民」という生き生きとした姿が与えられている。

浮沈が激しく再生産ができない金山の世界。それを生業にした人々とその生活が総合的な見地からの研究により明らかになりつつある。豊かで深みのある金山の世界が浮かび上がってきているのである。

著者紹介

萩原 三雄(はぎはら みつお) 1947-2022

山梨県生まれ。早稲田大学第一法学部卒。甲府市役所勤務ののち、1986年に財団法人山梨文化財研究所研究部長、2001年～2022年まで帝京大学文化財研究所所長・帝京大学大学院教授。専攻は中世考古学(城館と鉱山)。同研究所を舞台にした「考古学の中世史研究会」を20年以上にわたって牽引し、考古学と隣接諸学との学際研究の推進に尽力。

[主な著書・編著]『戦国期城郭と考古学』(岩田書院)、『日本の金銀山遺跡』(編著・高志書院)、『中世城館の考古学』(編著・高志書院)、『中世の城と考古学』(編著・新人物往来社)ほか多数。

参考(当館所蔵資料)

『日本鉱山史の研究[正]』小葉田 淳 / 著 岩波書店 1987

『戦国金山伝説を掘る 甲斐黒川金山衆の足跡』今村 啓爾 / 著 平凡社 1997.2

『日本の金銀山遺跡』萩原 三雄 / 編 高志書院 2013.12

本紙は、県立図書館が新たに所蔵した資料(図書資料・視聴覚資料)から、ぜひご利用いただきたいものを厳選してご紹介するものです。これらの資料は、禁帯出資料を除き、最寄りの図書館に取り寄せできます。

なお、本紙の内容はWebにも掲載しています。ご覧の際は右のQRコードをご利用ください。また、内容の誤り等、お気づきの点があればお知らせくださるようお願いいたします。

